



地域包括ケアシステムの 構築のために看護職が できること



生活支援看護学領域
在宅看護学分野

教授 中村裕美子

「地域包括ケアシステム」は、2025年に団塊の世代が後期高齢者になることに対応する施策として国が打ち出したものです。75歳以上の高齢者が急増することから、医療や介護が必要な方が増加します。しかし、少子化と相まってその方々を支える家族も少なく介護負担や介護難民が生じかねない状況になります。そのような状況を引き起こさないために、地域包括ケアシステムを構築していく必要があります。人々が安心して地域で暮らし、必要に応じて医療や介護、福祉サービスを利用でき、住まいを提供されるようにすること、また、保健活動や介護予防にも注力していくことも含まれています。これらのサービスの利用や援助が円滑な関係機関の連携のもとで機能するようにするシステムです。

地域包括ケアシステムでは、「自助、互助、公助、共助」という4つのシステムを提案しています。この4つのシステムがバランスよく機能することが欠かせません。

「自助」は、高齢者自らが努力することであり、高齢者間で相互に支え合うことです。具体的には、高齢者自身が健康に留意し、健康寿命を延ばすような生活を送ることが求められています。ここでは健康の保持増進のための支援として、健康づくりや介護予防活動が市町村で積極的に取り組まれています。また、介護が必要になったときには自助努力として民間の介護サービスや保険などを購入して、利用することも含まれます。

「互助」は、地域で住民が生活や介護を助け合うことです。ここでは地域の人々のつながりを作ることと、人や物などの資源の有効活用が欠かせません。これは地域づくりを進めていくことですが、地域の人々の関係が希薄になっている現代では難しい課題となっています。

「公助」は、生活保護制度などの国の税金によって直接支援されるもので、生活を保障する最後の砦、セーフティネットとしての役割があります。

「共助」は、医療保険や介護保険制度などの公的な保険制度による支援です。今、医療費や介護療養費が高騰し、公的保険制度を圧迫しています。昨今の介護保険制度の見直しは、応能負担の指向性が強くなり、国民に費用負担を求める方向に進んでいます。このため療養者、あるいは家族に利用控えの判断が働くことも危惧され、必要な人びとに十分なサービスが提供される「共助」が機能しなくなる可能性があります。

さて、医療、保健、介護・福祉のどの分野にも看護職が活躍する場が存在します。看護職は地域包括ケアシ

ステムの構築にどのようにかかわることができるのでしょうか。

多くの看護職が働いている医療の場においては、病院の入院期間の短縮により、患者は急性期を脱するとすぐに転院や自宅退院することになります。患者や家族は、不安を抱えながら退院していくことでしょう。そんな時、看護職は患者が退院することを目標にするのではなく、入院前の家庭にもどって療養することを目標に看護していくことと、治療が優先される臨床の場においても在宅や生活の視点をもって看護することは、患者が安心して退院することにつながります。また、在宅の診療所や訪問看護職やケアマネジャーともつながりができることでしょう。その積み重ねが地域包括システムの構築に包含されていきます。

一方、地域では、看護職は訪問看護職として在宅で看護を提供することができます。しかし、「これからは在宅！」と言われて久しいですが、訪問看護職はまだ不足しています。とくに都会では切実な問題です。今、いろいろな対策が進められていますが、訪問看護ステーションは、小規模な事業所が多く、職場環境の悪さや幅広い看護の知識や技術が求められる仕事という特殊性から、訪問看護職はあまり増えていません。療養者や家族に密着した、自立して看護が提供できる訪問看護に関心を寄せていただきたいと思っています。

最後に、地域包括ケアシステムの構築は、市町村が担うことに位置付けられていますが、行政からの働きかけで関係機関や関係者の代表が集まって地域ケア会議などを開くことで、システムができるわけではありません。地域包括ケアシステムを構築する主体は、実は地域の人々です。介護が必要となったときに初めてどうしようかと考えるのではなく、元気な時から将来のことを考え、地域の問題を見つめ、住民自らが安心して暮らせる地域を創ることが必要です。また、地域の人々を単に「サービスを受ける人」として受け身にしておくのではなく、サービスを作り出す人、地域をつながりを作る人として、その力を養い、発揮する場をつくるのが重要です。その場が地域包括ケアシステムなのです。そこへの看護職のかかわりも重要です。地域づくりを担う保健師だけに任せるのではなく、看護職が出会った人々や関係者と、健康について、医療について、介護について、福祉について、一緒に考えてみましょう。地域の住民、患者や療養者、家族ひとり一人にとって適切な支援が受けられる地域になることが望まれます。

同窓会会長 就任あいさつ



大阪府立大学
看護学部4期生
大学院博士前期課程8期生
真砂隆太郎

会員の皆様、いかにお過ごしでしょうか。私は平成28年4月より前任の前田一枝さんよりバトンを頂き会長に就任いたしました。白鳥会も毎年新たな会員をお迎えし、ますます大きな規模となってきました。この同窓会に会長として携わることができ、光栄に思います。役員の皆様と一緒に、少しでも会員の力になれるように取り組んでまいります。

今私は保健師として働いていますが、日々毎日の仕事や生活に追われることも多く、自分が理想としていたことを横においてしまうこともあります。そんなときに同窓会に参加することは大学・大学院でのことをふと思い出し、気持ちを引き締め直すきっかけになっていると思います。

看護の世界においては、科学的根拠に基づいた実践が不可欠であり、現場の看護実践の中でも研究を行っていくことが求められています。白鳥会では研究費助成も行ってまいりますので、是非活用して頂きたいと思います。大阪府立大学の卒業生が世界で活躍していくことを後押ししていくことができるような同窓会活動を目指していきます。

大阪府立大学看護系同窓会として、白鳥会は平成29年で発足20年記念の年になります。2年に1回の総会は29年9月に開催予定です。盛大な会になるように準備してまいりますので、大勢の皆様とお会いできることを楽しみにしております。

『平成27年度・28年度に就任された先生方からの御挨拶』

着任の御挨拶



健康科学領域
教授 澤井 元

白鳥会会員の皆様、初めまして、澤井元（さわいはじめ）と申します。平成27年4月1日付けで、高辻功一先生の後任として、大阪大学医学系研究科統合生理学より本学教授に就任いたしました。どうぞ、よろしく御願います。高辻先生は私が阪大院生時代に神経解剖の技術を教わった御縁があり、その後任になれたことは大なる喜びです。同時に、府立看護大学開学以来から長らく本学の教育と研究に尽力された先生の業績は大きな重圧でもあります。微力ながら伝統を継承し僅かでも発展に貢献する所存です。実は着任の半年前に受けた人間ドックで肺癌が見つかり、阪大付属病院で摘出手術を受けました。初めての入院・手術で身にしみたのが、看護の力の大きさでした。その時の担当看護師の一人が本学卒業生のIさんで、本学との運命的な繋がりを感じたものです。そして、本学での専門基礎教育を通じて少しでも恩返ししようと誓いました。

担当講義は初年次ゼミナールと解剖生理学、大学院の生体情報論です。前任地では生理学・神経科学の一部を講義するだけでしたので、本学で一人で全範囲を講義できるのは教える者として冥利に尽きますし、それこそが本学への志望動機でもありました。45コマという限られ

た時間の中で、人体の構造と機能についての基本知識だけでなく、その面白さや精巧さへの感動を伝えることを理想としています。さらに、希望に満ちた新入生に、この分野では生涯にわたり自ら学び問い続ける姿勢が必要不可欠であることを叩き込みたいと思っています。研究は、視覚生理学とその応用としての人工視覚開発を行って来ましたが、実験動物を用いた電気生理学的研究でしたので、本学ではテーマの再考が必要となりました。幸い、昨年の総合研究の学生（石田君・岡本さん・川田さん・高橋君）が涙のストレス緩和効果という面白い実験を企画してくれたので、これを基礎に情動とストレスの関連について調べてみようと考えています。

最後に、昨今の大学や学部や講座では同窓会やOB会を維持することが難しくなっています。背景には、社会や帰属意識の変化、個人情報管理の問題、団体の法的問題など複数の解決困難な原因があるのですが、歴史や伝統は積み重ねる努力がなければ崩壊してしまいます。本会がこれからも継続発展されることを祈念する次第です。

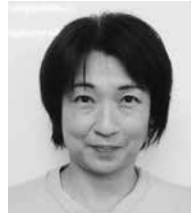
会員の皆様、今後とも御指導御鞭撻の程よろしく御願います。

就任のご挨拶

白鳥会の皆様にはますますご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。この度、平成28年4月より家族支援看護学領域 母性看護学・助産学分野に着任いたしました。

私は大阪府立看護短期大学を卒業後進学し、助産師として大阪府立母子保健総合医療センターで勤務したのち、神戸大学大学院医学系研究科保健学専攻で学位取得しました。教員としては、大阪府立看護短期大学から大阪府立看護大学への移行期にお世話になった後、他大学での教育経験を経て、ご縁があって本学へ戻って参りました。

私はこれまで、Women's healthの視点を中心に、①月経前症候群に対するストレスマネジメント、②妊娠期の身体活動教育プログラムの開発、妊婦の歩行分析と腰痛軽減への支援のテーマを中心に研究に取り組んできました。これらの研究を進めていく過程においては、生理学的見地から月経周期による変化を検証する一方で、月経に対する認識を質的研究手法により提示してきました。現在取り組んでいる妊娠期の歩行分析と腰痛に関する実証データを提示し、新たな見地から妊娠期の腰痛予防へ



家族支援看護学領域
母性看護学・助産学分野
教授 渡邊 香織

の基盤作りに取り組んでいきたいと考えております。また、これまで検査技術学や理学療法学の研究者との共同研究による、研究規模の拡大と深化から、今後は新たな知見が得られるよう看護と多職種の協働による研究を推進していきたいと思っております。

母性看護学では、周産期における母児の健康診査の査定、診断に基づく看護ケアを、ウェルネスの視座から提供することにあると捉えており、助産教育に関しては、医学の進歩発展、性と生殖に関連する健康問題の多様化を背景に、高度な教育が提供できるよう努力して参ります。大学院教育では、看護実践につながる理論の理解と展開ができる能力の育成や実践の改革ができる人材、学際的活動ができる人材の養成に尽力していきたいと考えています。本学には、豊かな人間性を備えた聡明な学生が入学されています。そのような学生の皆様と、一緒に学び・研究できることに感謝しております。

白鳥会の皆様には、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。

看護実践の科学的根拠と 感性の大切さを伝える意味

私は、大阪府立大学（旧：大阪府立看護大学）の卒業生です。こうして、皆さまに就任のご挨拶をさせて頂けることに心より感謝致します。昨年の秋に本学に就任し、1年が過ぎようとしています。長い間看護実践に携わり、その経験が深まるにつれ、看護学の醍醐味を実感するばかりです。そんな実感を、自己の感性とともに根拠をもって看護学を学ぶ人々に伝えることの意味を日々考えながら過ごしています。

看護学は、人間の健康障害に関連して生じる反応をよく観察し、その原因を取り除くもしくは緩和することを目標としています。それは、健康促進の時も疾病管理が重篤な時も、またその治療の効果がなく死にゆくときも、患者の苦しみや悲しみの理由を取り除き緩和するというものです。先端治療の選択の苦悩や自分の病気を抱えて人生をどう生き抜くかも支える、重責を負う仕事だと感じています。医学が細胞の変化を追究する時、看護学が人間の全体性とその細胞レベルの変化をよく観察して治す支援をすることを追究する学問だということを丁寧に伝えていきたいと考えています。自己の感性と科学的根拠をもとに実践することの素晴らしさを伝え、看護が実践の科学で、またケアそのものが創造的なものであ



療養支援看護学領域
急性看護学分野
教授 北村 愛子

ることを伝えて、学生の方々と共に成長したいと思っております。

とある患者さまが、「病気にはなったけど、人のお世話になることで、私が人間でいられる自分に気づいたの」とおっしゃったことがありました。本当に意味深い表現だと感じます。自分が重篤で動けなくても、看護師が自分を丁寧に観てお世話してくれる、私は、その瞬間、自分で息ができるということだと言い換えて表現されました。この意味の深さと真意、ケアの中身を伝えることは、相当に多くのことを学問上お伝えしなくてはなりません。看護学について、人が人に伝える意味は、人からしか学べないことがあるということを中心に据えて教育・研究活動をしていきたいと考えています。

看護学を追究するための研究とそこから生まれた理論を使って実践し、ケアを創造して、患者さま一人一人に応じたケアを行う専門職の力を伝えることができるように努力していきたいと思っております。そのためには、私も学習し続けて、看護のすばらしさを語れるように、尽力しなくてはと考えています。この大学で出会う皆様とその機会が得られることを楽しみにしています。

大学・校友会とのコラボによる活性化

大阪府立大学東京同窓会

副会長・幹事長 山田 昭正

東京同窓会は学部・学科別の同窓会組織である単位同窓会（縦軸）とは違い各単位同窓会を横軸で結んだ地域同窓会です。合同の同窓会の為、会員の把握や取り纏めの難しさ等ありますが、半面色んな学部の人とお付き合い出来ると言う面白さもあります。

そんなメリットを生かして2ヶ月に一度「中もず会」（勉強会）を開催しています。講師は各学部のOBをお願いしています。

昨年から大学のFLEDGE（文科省グローバルアントレプレナー育成促進事業）、校友会との共催にしました。狙いは起業した会社の話や、現在取り組んでいる仕事の話、時機を得た話題などOBの活躍の状況を学生たちに聞いて貰う為です。

東京会場の霞が関KK2スタジオとI-Siteなんば、I-Wingなかもずを結び相互に画像と音声を送る3元中継で行い、地域を超えた情報交換が出来る様になりました。東京会場には毎回35名位が集まります。

12月の会では奥田地域保健学域長にリオパラリンピックで銀メダルを取った「ボッチャ」について、銀メダルの裏に府大ありと言う興味深い話を伺いました。

勉強会終了後の懇親会も大切なイベントです。

若い参加者も関西弁の世界にすぐに打ち解け、学部の違う先輩や後輩たちといつも遅くまで会話がはずみます。

若い人たちの同窓会活動へのエントリー行事として位置づけ力を入れているところです。

東京地区に在住の方は是非一度覗いてみてください。

10月に広島同窓会に参加しましたら 白鳥会の方が参加されており、府大や女子大斐文会の方たちと交流を深めておられました。

東京同窓会も毎年2月に新年会を開催しています。白鳥会からも毎年会長に参加してもらっていますが、広島同様東京地区の白鳥会の方にも参加して頂きたいと思っています。

東京同窓会新年会を東京地区白鳥会の交流・懇親の場として活用してください。

奥田学域長や上野看護学部長にも参加して貰えば先生との交歓も出来ます。

東京同窓会の活動はHP「大阪府立大学東京同窓会」（検索）で紹介しています。中もず会などへの参加申し込みも出来ます。一度ご覧ください。

白鳥会の皆様のご健勝とご活躍を祈念し、東京同窓会でお会い出来るのを楽しみにしています。

第23回杏樹祭を終えて

大阪府立大学 羽曳野キャンパス
第23回杏樹祭実行委員会委員長 **大野 生渡**
杏樹祭実行委員会一同

この度は杏樹祭への寄付、誠にありがとうございました。ここに杏樹祭での寄付金の活用について報告いたします。まずは、杏樹祭においてなくてはならないもの「吉本LIVE」です。今年は、ミサイルマン・銀シャリ・学天即といった3組の芸人さんたちにお越しいただき、これらの方々はTV出演が多く、人気度・知名度があったので、さまざまな人が足を運び、大盛り上がるの吉本LIVEとなりました。吉本興業株式会社と契約を結ぶ際に寄付金の一部を使用させていただきました。他では、キャンパスの装飾やオブジェの制作に使う紙やテープなどの製作費に寄付金の一部を使用させていただきました。

今年の杏樹祭は、「杏believable」という言葉をテーマに掲げました。「unbelievable」という単語には“信じられない”や“驚くべき”などの意味があります。今年度は杏樹祭実行委員としてあらゆる人たちと信じられないくらい協力して、昨年度より広範囲に近隣住民の方々にチラシを配布したり、ミス・ミスターコンテストの出場者を事前に掲示して、事

前投票をできるようにしたりしました。その結果、コンテストの投票数が昨年度より驚く程増加し、たくさんの方に楽しんでもらった学園祭を行うことができました。

白鳥会の皆様をはじめ、学生グループの皆様、後援会の皆様のご協力なしには成功しなかったと、杏樹祭実行委員会一同、心から感謝しております。



大阪府立大学看護学系同窓会 平成27年度会計報告

(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

前年度繰越	8,776,894円
収入	1,441,550円
支出	1,330,072円
収支差引額	111,478円
(平成28年度へ繰り越し)	8,888,372円

収入の部

科 目	金 額
平成27年度入学者109名分 (@10,000×109人=1,090,000)	1,330,000
終身会費 上記以外 19名分 (@10,000×14人=140,000) (@20,000×5人=100,000)	
総会参加費 (@3,000×37人)	
その他 (受取利息)	550
合計	1,441,550

支出の部

科 目	金 額
寄附金 ホームカミングデイ、杏樹祭実行委員会寄附金	117,168
総会費	708,815
業務委託費	263,582
会議費 役員会議費：会場費、交通費など	23,009
消耗品費	699
人件費	37,000
その他 予備費-1 (支払手数料)	12,259
その他 予備費-2 (式典・校友会等出席経費)	67,540
その他 予備費-3 (同窓会費返金)	100,000
合計	1,330,072

以上の通り会計報告致します。

平成28年3月31日

大阪府立大学看護学部及び看護学研究科同窓会

会 長 前 田 一 枝  会 計 安 本 理 抄 

平成27年度同窓会会計の諸帳簿、書類などの監査の結果、適正に執行されていることを認めます。

大阪府立大学看護学部及び看護学研究科同窓会

会計監査 撫 養 真 紀 子  深 山 華 織 

大阪女子大学同窓会 50周年を迎える 「斐文会結婚相談室」のご案内

2012年より記事を掲載していただいております、大阪女子大学同窓会「斐文会結婚相談室」です。お蔭さまで、白鳥会の会員の皆さまにも徐々にご認知いただけ、大変感謝しております。

1967年（昭和42年）、大阪府女専及び大阪女子大学の卒業生とその子女の結婚をお世話するために開設された当結婚相談室は、今年で50周年を迎えることになりました。

相談員や委員は全て斐文会会員が担当している同窓会の結婚相談室だということで、大いにご信頼いただき、数多くのカップルが誕生しております。母娘、姉妹、兄弟が揃って入会され、ご結婚されたケースも何組もあり、私どもも喜びのお裾分けを頂戴しております。

また、2005年の府立三大学統合を機に、白鳥会さまをはじめ、大阪府立大学関係の皆さまとご紹介者にもご入会いただくようになりました。さらに2009年の校友会発足後は、同じ大学の同じ同窓会会員の結婚相談室として、その輪がますます広がっております。

私どもの活動は関西が中心ではありますが、昨今は他地域からのご入会者も増えてまいりました。また、年齢の幅やご職業の幅も広く、さまざまな方がご入会なさっております。

白鳥会の皆さま、ご本人さまはもとより、ご関係者のご入会を心よりお待ちしております。私どもは、幸せづくり50年の実績でお応えしてまいります。

お問い合わせ先 / TEL 06-6390-1518
開室日時 / 月・水・金 13:00 ~ 19:00
(祝日の場合は18:00まで)
土・日 13:00 ~ 18:00
入会金 / 10,000円 年会費 / 10,000円

●● 事務局からのお知らせ ●●

○白鳥会のホームページをご覧ください

皆様に同窓会の活動や母校の“今”を知っていただくために、随時、情報を発信しております。ぜひホームページ <http://www.dosokai.ne.jp/shiratorikai/indexp.php?mid=1> をご覧ください。

○同窓会役員を募集しています

同窓会の運営にご協力いただける方を募集しております。今後、ますます同窓会活動を発展させるためには、皆様のお力が必要です。主な仕事は、会報誌の作成、同窓会総会の企画・運営です。同窓会を発展させていくためにも、多くのアイデアをいただき楽しく運営をしていきたいと思っています。ご希望の方は、白鳥会HPからお問い合わせください。

○同窓会費（終身）未納の方へ

同窓会活動は、会員の納める会費で運営しています。未納の方には、年に1回この会報誌と一緒に納入のお願いの文書と振込用紙をお送りさせていただいております。ご協力よろしくお願いたします。

○住所や姓名変更のお願い

例年、会報誌や同窓会総会の案内を送付していますが、宛先不明の方が多くなっております。住所や姓を変更された方は、白鳥会HPから変更のご連絡をお願いいたします。母校の情報をお届けしていきたいと思っておりますので、ご協力お願いいたします。

○翔システムをご登録ください

大阪府立大学同窓会である校友会には“翔”というネットワークシステムがあり、様々な交流・情報交換が可能です。大阪府立大学校友会HP (<http://www.opucr.osakafu-u.ac.jp>) から登録が可能です。

○同窓会会費についてご意見ください

これまでに皆様から頂戴した同窓会会費の残高が高額となっております。現在、会費は杏樹祭への寄付、大学への図書寄贈、研究助成、同窓会総会の参加費補助、会報誌の作成・発送に使わせていただいております。そこで次回総会では、同窓会費の会員への還元方法に関する提案や使い方に関して皆様のご意見を頂戴したいと考えております。また、総会に出席が難しい方は白鳥会HPや総会の出欠ハガキにご意見をご記入ください。どうぞよろしくお願申し上げます。

平成28年度 同窓会役員のご紹介

会 長：真砂隆太郎
副 会 長：浮舟裕介、阿川勇太
書 記：野中翔太、高知恵（会報誌）
会 計：富田亮三、安本理抄
会計監査：撫養真紀子、山内加絵
事務局長：山口舞子
事 務 局：深山華織、根来佐由美、前田一枝
中村雅美、古川亜衣美

新学年幹事

学 類 生：赤井悠、廣地彩香
院 生：瓜田裕子、小西知子、吉田麻美

編集後記

春風が心地よいこの頃、皆様いかがお過ごしでしょうか。今年度は会長をはじめ役員が大きく変わりました。そして平成29年度は2年に1度の同窓会の年です。新しくなった白鳥会での初めての大きな企画になります。皆様、是非楽しみにきてください。

役員も変わり、フレッシュな風が吹き始めた白鳥会です。今後とも、皆様の力で素敵な会にしていきたいと思っております。最後になりましたが、ご多忙にも関わらず会報誌にご寄稿くださいました皆様に心から御礼を申し上げます。